

研究課題

「ぼうけんくん」(パナソニック HC-BKKI 文教用デジタルビデオカメラ)を活用した、「聞く・話す」力の育成に関する研究

キーワード

学校名

川西町立犬川小学校

所在地

〒999-0133
山形県東置賜郡川西町大字小松823

ホームページ
アドレス

<http://inukawasho.sblo.jp/>

1. 研究の背景

(1)研究の社会的背景から

国立教育政策研究所が提言する「21 世紀型能力」では、より他者とのコミュニケーションや関わり、対話が重要視されている。変化の激しい現代を生き抜くために、言語や ICT 等の情報をツールとしながら、他者と関わりつつ、導き出した答えを発信していく能力が社会的に求められているといえる。

(2)児童の実態から

本校では、本研究に取り組む以前、論理的な思考力の育成のために小論文指導の研究を実施してきた。研究の実践により、児童の「書くこと」に対する意欲が大いに高まった。また、内容や言葉を精選して筋道の通った構成で文章を書くことができるようになり、論理的な思考力が向上した。

しかし、過去5年間のNRTテストを分析したところ、新たな課題が浮上した。全体的な結果は良好ではあったが、「話すこと・聞くこと」の領域で全学年的とも「大事なことを聞き取ること」、「話しの中心に気を付けて聞くこと」、「話し手の意図を考えて聞くこと」に落ち込みが見られた。

数値的な課題だけではなく、子どもたちの集会や児童活動での話し方、授業での話し合いの場面でも課題が見られた。特に、聞き取り易い発声と最後まではっきり話すこと、大事なことを聞き取ることに対策が必要であると考えた。

上記のような社会的背景と本校の実態から、ICT 機器を活用しながら「話すこと・聞くこと」の向上を目指した研究を立ち上げたのである。

(3)昨年度までの研究の経過

「話すこと・聞くこと」に関する研究は、今年度で2年目の実施となる。昨年度は、「聞く・話す」指導を通して児童の学び合いを推進してきた。研究の実践により、「ねらいと評価を明らかにすることで、児童自身がねらいや達成度をより認識できたこと」、「主に下学年で話型の有効性が明らかになり、上学年では話型から離れて自由な話し合いができるようになったこと」、「推敲や作品作り等の活動で、学年の実態に応じた交流学习が為されたこと」といった成果が挙げられた。

また、試験的に1台のみ導入した「ぼうけんくん」の活用が見られつつあり、児童の視覚に情報を訴えるという点において有効性が明らかとなった。児童自身の発表の姿を動画で撮影し振り返ったり、図を拡大して素早く提示したりといった活用が見られた。

一方で、児童の「伝えたい」という思いを喚起し、学習内容に必然性を持たせるという点においては、検討が必要であった。また、単に自分の意見を話すという段階から、互いに理解を深め合えるような交流学习の手立てについても、更なる研究の余地があると考えられた。

2. 研究の視点と目的

昨年度の研究の経過により、今年度は「ぼうけんくん」という有効なツールを活用しながら、「視点① ねらいを明確にした学習活動の工夫」「視点② 伝え合い方を確実に学ばせる工夫」「視点③ 学び合う場の工夫」を研究の視点として据えた。

この3つの視点を各学年の実態に応じて具体化し、児童の「聞く・話す」力を向上させることで「学び合う」児童の育成を実現することが本研究の目的である。

3. 研究の視点・方法

昨年度の研究により有効性が実証された「ぼうけんくん」を各教室に1台ずつ常設し、本機器を活用した研究授業を提案・実施する方法を採った。教科は国語科とし、各学年で「学び合う」ことをねらった授業を提案した。その際、「話すこと・聞くこと」領域に限定せず、各学年の実態に応じて教材を選択できる。その上で明らかとなった成果と課題を分析することとした。

同時に、「ぼうけんくん」の有効性と活用方法についても検証を継続した。それぞれの学年が設定した「聞く・話す」力の向上のための指導を行う中で、「ぼうけんくん」を「有効なツール」として位置付け、職員内で「当たり前の道具」として定着させることも成果目標とした。そのために、ICT機器に明るい若手教員と豊富な経験を有するベテラン教員が意見を交流するOJTの体制を整えることとした。

4. 研究の内容・経過

「ぼうけんくん」を活用した「聞く・話す」力の育成を目指した研究は、以下の日程で実施した。

6月5日(金)第4学年 調べたことを整理して書こう「新聞を作ろう」

7月1日(水)第5学年 話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう

「きいて、きいて、きいてみよう」

10月8日(木)第1学年 くらべてよもう「じどう車くらべ」

10月8日(木)第2学年 お気に入りのお話を音読げきでしようかいしよう

「お手紙」『ふたりシリーズ』

10月14日(水)第5学年 すぐれた表現に着目して、「物語のみりよく」を伝え合おう

「大造じいさんとガン」

10月14日(水)第6学年 「世界に歩み出した日本」

※10月14日の実践は、川西町による学校教育研修である。

11月11日 川西町学校教育研修所 教職員研究発表会

※「ぼうけんくん」の有効性について分析し、他校に発信。

11月16日(月)第6学年 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう『鳥獣戯画』

12月9日(水)特別支援学級 言葉について考えよう 分かり易く伝える




以下に、実践例を記す。

(1) 5年【国語科】「きくこと」について考えよう「きいて、きいて、きいてみよう」

①本時の目標

- ・話し手の応答に合わせて、臨機応変にインタビューをすることができる。(聞き手)
- ・聞き手の意図を捉えながら、質問に答えることができる。(話し手)
- ・インタビューのやり取りの要点を正確に記録することができる。(記録者・カメラマン)

②指導過程

分	主な学習活動	主発問(○)指示(△)反応(・)	授業の様子
5分	1 前時の内容を想起する。 2 本時のめあてを掴む。	○友達のことをよく知るためのよい尋ね方、答え方、記録の取り方は何でしたか。 ・あいづちをうつ、相手の言葉を繰り返す、理由やエピソードを具体的に話す、要点を聞き取り、短い文でメモする…	
実際のインタビューを通じて、自分たちの言葉できき方のポイントを考えよう。			
10分	3 グループごとにインタビューをする。 4 記録係がインタビューの内容を説明する。	○前の時間の学習を活かしながら、インタビューを実際に行いましょう。 ○グループごとに、インタビューを始めましょう。	
5分	5 動画でインタビューを振り返る。	△記録係の人は、どのようなインタビューだったのかを説明して下さい。	
20分	6 本時の学習のまとめをする。	○インタビューの振り返りをしましょう。 △ビデオを見て、友達の良い表現を探していきましょう。 ・○○君が、「～」というあいづちを使って良かった。 ・○○さんが、「～」と相手の言葉を繰り返していた。	
5分	7 次時内容の確認をする。	○今日の学習を振り返りましょう。 △ワークシートの振り返り欄に、今日のめあてが達成できたかを文にまとめましょう。	




(2) 5年【国語科】すぐれた表現に着目して、「物語のみりよく」を伝え合おう

「大造じいさんとガン」

①本時の目標

「優れた表現」「心動かされる登場人物の様子」「物語の魅力」に着目しながら、作品の魅力について考えを広げたり深めたりすることができる。【読むこと】

②指導過程

分	主な学習活動	主発問(○)指示(△)反応(●)	授業の様子
5分	1 前時の内容を想起する。 2 本時のめあてを確認する。	△自分たちが担当している作品について、「座談会」で話すポイントを確認しましょう。 △11月の読書祭りで、作品を薦めるための「読書座談会」を行いましょ。	
	「物語のみりよく」を「読書座談会」で交流しよう。		
1班で18分×2班分	3 グループごとに「読書座談会」を実施する。 4 動画で「読書座談会」の内容を振り返り、キャッチコピーを話し合う。	△それぞれのグループに分かれて、「座談会」を始めてください。 △「読書座談会」の振り返りをしましょう。 △ビデオを見て、「自分たちが座談会をした作品の魅力伝える」キャッチコピーを考えましょう。 ・「ある日、子グマに危険がせまる。どうする母グマ!!!」…	 
4分	5 次時内容の確認を行う。	○次時の確認をしましょう。	

(3)その他の実践例

①6年【社会科】「世界に歩み出した日本」



教科書のグラフを「ぼうけんくん」で撮影し、移動式デジタルテレビに投影している。

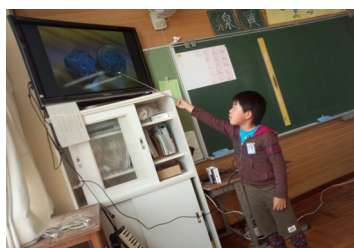
教科書を児童それぞれが見るのではなく、大画面に映った資料をもとに全体で話し合い活動を行っている。また、注視させたい箇所は赤や青でマーキングしている。

他にも、地図帳の提示の際には注目を容易に集めることが可能であった。

②その他の活用例



3年生の体育の様子。自分自身の動きやフォームを視覚的に振り返る。



2年生の朝の会のスピーチの様子。自分が撮影してきた写真について、説明する。



4年生の「面積」の導入における活用。「 km^2 」の指導を、視覚的に行っている。

5. 研究の成果

(1)校内研究全体における成果

【視点① ねらいを明確にした学習活動の工夫】について

- ・単元に適した言語活動を設定することは、伝える相手と目的を明確に示すことであり、児童の意欲につながる。また、学習の最終目標が児童に示されていると、児童が行き詰まった時に本来の目的に立ち返って学習を進めることができる。
- ・言語活動のモデルを示すことで、児童は見通しを持って学習を進めることができる。
- ・ねらいと評価を明確にすることで、児童の達成度も明確になった。

《視点①における「ぼうけんくん」に関する成果》

教師側の評価だけでなく、児童による自己評価において「ぼうけんくん」が有効に機能した。自分のワークシートや発表の様子を写真や動画で振り返ることができ、自分自身の姿を客観的に評価することができた。

【視点② 伝え合い方を確実に学ばせる工夫】について

- ・既習事項を掲示しておくことで、効果的に話し合ったり書いたりできる。学習したことを確実に積み重ねていくことで、今後の国語の学習や他教科への波及が期待できる。
- ・複数の方法や手段を示し、目的に応じて児童に選択させることは有効であった。
- ・一人一人に考える時間を保障し、思いや考えをカードに書かせることで、伝えたいことが明確になる。その後の話し合い活動も明確になる。
- ・話し方の方に沿って練習を重ねることで、抵抗なく話せる児童が増えた。また、型から離れた児童同士の自由な交流が見られた。
- ・視点を与えて相手の考えと自分の考えを聞き比べるようにさせることで、学びが深まっていく。また、話す視点を示すことで、過不足なく思いを伝えることができた。

《視点②における「ぼうけんくん」に関する成果》

児童自身が持って活用することができれば、「学び合い」のための有効なツールとなる。例えば、前述の「きいて、きいて、きいてみよう」の実践では、他グループだけでなく自分たちのグループが行った対話の様子を客観的に振り返ることができた。そのため、良かった様子等を全体で効率的に共有することができた点で成果が見られた。手本となる児童の発表の様子等を動画で記録しておけるため、効率良くスキルを高めることができた。

【視点③学び合う場の工夫】について

- ・各授業研で学び合う必要性のある活動が設定された。学び合いの活動にも、視点が必要。
- ・ペア学習、グループ学習など、学年や学習内容に合わせた学習形態が設定され、良さを共有する手立てがとられていた。

《視点③における「ぼうけんくん」に関する成果》

「ぼうけんくん」は、事前の特別な準備がなくても資料を拡大提示できる利点があるため、教師が1台持っていれば幅広く活用できる。児童が手元の資料を各自で見ると、大画面で指示した方が効率的である。

そのため、時間をかけずに児童の思考が全体に共有できる。「学び合う場」が、瞬時に設定できる利点は大きい。

6. 今後の課題・展望

(1)校内研究全体における課題

【視点① ねらいを明確にした学習活動の工夫】について

- ・設定した言語活動は、学級に留まらず隣接学年、保護者、地域に発信し、思いや考えを伝えるものにしていきたい。

《視点①における「ぼうけんくん」に関する課題》

日々の活動が手軽に記録できるようになったため、保護者会等で児童の様子を簡単に伝えることができた。今後は、更に発信の回数を増やしたい。

【視点③学び合う場の工夫】について

- ・設定した学び合い活動が、国語の力を高めること、単元の目標を達成するために有効に機能しているかを常に考えていく必要がある。
- ・スキル習得に留まらず、思考の深まりが見られる話し合い活動を目指したい。

《視点③における「ぼうけんくん」に関する課題》

「ぼうけんくん」の使用に限ったものではないが、常に設定した活動が有効かを吟味し続ける必要がある。「ぼうけんくん」があれば、劇的に授業が変化するのではない。漫然と使用するのではなく、「ぼうけんくん」を使用する効果的なタイミングについては、今後も研究が必要である。

7. おわりに

冒頭で述べたように、「聞く・話す」力は、変化の激しい社会を生き抜くための必要な能力である。その力が、今年度に導入した「ぼうけんくん」を用いて効果的に高められたことは、大きな成果であった。しかし、今はまだ「ぼうけんくん」は「特別」な機材である。「ぼうけんくん」がチョークや黒板のような「当たり前のツール」となり、教師にも児童にもより身近な存在となるまで、研究を推進していきたい。